

## 最優秀賞 「幸せと食」

天理高等学校第二部 4年 眞貝 詩織

私は食べるのが大好きです。美味しく食べる為の努力は、幸せに生きる為の努力だと思います。

私は普段、調理をすることを仕事としていますが、元々はあまり料理が得意ではありませんでした。野菜を切ったり炒めたり、味つけをしたり、この四年間で様々な料理を作りました。

いつも心がけているのは、どうすれば美味しくさうだと思ってもらえるか、どうすれば食べやすく、美味しいと思ってもらえるかなど、見た目も味も、食べる人の気持ちを考えることです。味が良くても、見た目がよくなければ、口に運んでもらうことすらできません。

また、私自身、野菜があまり好きではなかったのですが、どうすれば、苦手なものを、食べたいと感じてもらえるか、また少しでも克服できるかも、考えながら調理しています。自分の為だけに料理をするのであれば、自分の好きな材料で、好きな調味料で料理をすれば良いけれど、どうせ美味しく食べる為の努力をするのなら、誰かを想っての努力の方が、何倍もの価値があると思うのです。

大切なあの人に食べて欲しい。そう思えば自然と、時間や手間をかけるようになると思います。また、逆の立場でもそうです。ちょっとした食事でも、誰かが気持ちを込めて、少しでも美味しくなるようにと努力をしてくれたのだと思えば、そう簡単に好き嫌いは言えないはずです。

料理をする人がいて、それを食べる人がいて、そしてまたその食材を作った人がいて、たくさんの命のつながりの中に私たちの食生活があるのだということを忘れてはならないと思います。

そしてこのことを将来、子どもたちに伝えていきたいです。私が作る料理を食べ、美味しい、幸せだと感じてくれる人がいる限り、私はこの努力をおしみません。